

小規模事業者景気動向調査

(令和4年4月～6月の景況)

北勢商工会広域連合

1 調査概要

調査時期	令和4年6月
調査地域	北勢地域 (いなべ市 楠町 東員町 桑名市 菰野町 川越町 朝日町 木曾岬町)
調査企業数	100社 (内訳 製造業22社 建設業19社 小売業27社 サービス業32社 回答率100%)

2-1 総論

国内景気が新型コロナウイルスの影響を受け始めたのは2020年3月以降とされるが、政府の今年5月の月例経済報告では、国内景気の基調判断から新型コロナウイルスに関する記述が外れた。一方で、物価上昇が企業の深刻な悩みとなっている。日銀が公表した4月の国内企業物価指数は、前年同月より10%上昇し、過去最大の伸びとなった。伸び率は、ロシアがウクライナに侵攻した2月が過去2番目、3月が過去3番目の大きさであり、物価上昇が歴史的な高水準で推移しているといえる。そして、物価上昇の波は幅広い品目に及び始めている。

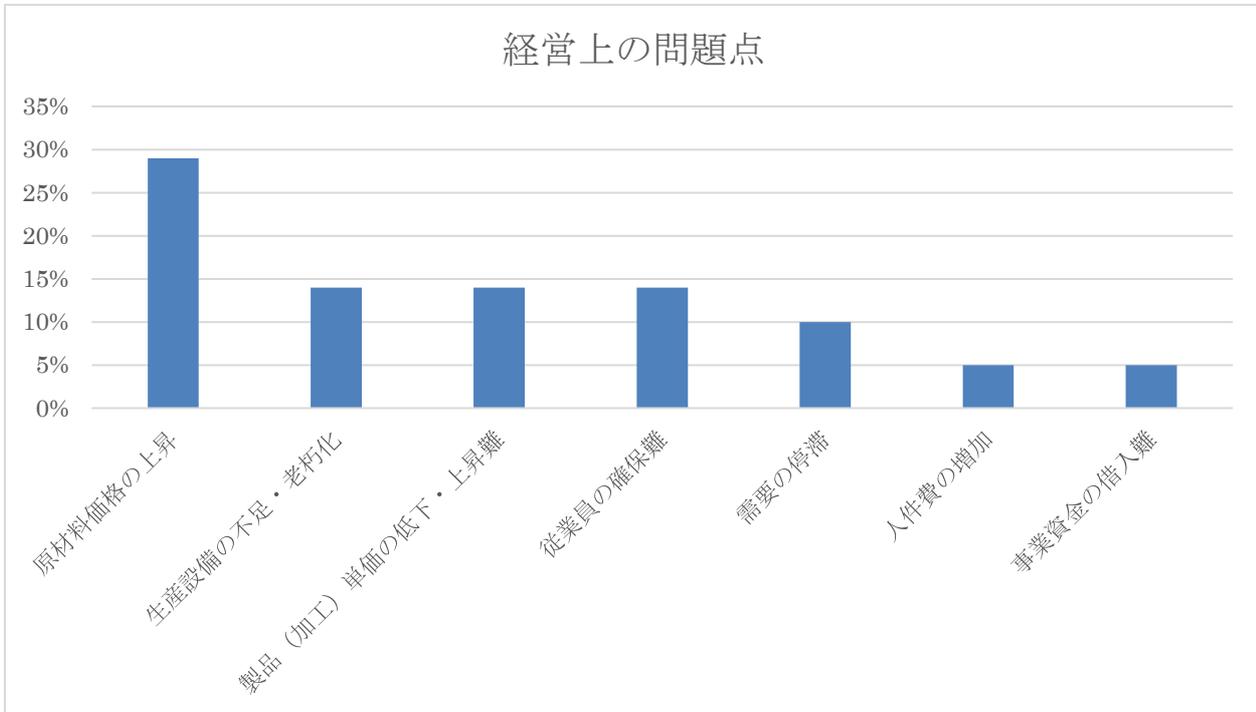
物価上昇の原因は、20年ぶりの円安傾向、中国でのロックダウンによる部品などの供給不足、原油価格の高止まりなどによるコストの上昇等があげられており、これら要因はまだ先の見通しがきかない状況にあるため、物価安定の先行きが見えない。歴史的な円安により上場企業の純利益は過去最高を更新する見通しであるが、国内の個人消費は伸び悩んでおり、小売りや外食といった内需型の業種は非常に厳しい状況におかれている。これを表すように、今回の景況調査では、どの業種においても、原材料価格の上昇が一番の問題点にあげられている。

今回の景況調査は、令和4年4月から6月にかけての三重県北勢地域の小規模事業者の景気動向を検証していく。北勢の商工会地域に関する今期(令和4年4月から6月)の業況を、前年同期(令和3年4月から6月)と前期(令和4年1月から令和4年3月)と比べたデータをもとに、各業種の経営課題を抽出する。

なお、以下で「今期」とは令和4年4月から令和4年6月を、「前年同期」とは令和3年4月から6月を、「前期」とは令和4年1月から令和4年3月をいう。また、DI値に関して

は、(1) 好転 (2) 不変 (3) 悪化の 3 段階の選択肢のそれぞれの構成比 (回答企業割合) を算出し、好転の構成比から悪化の構成比を差し引いた数値を用いる。変化がない場合は 0 とする。

2-2 製造業

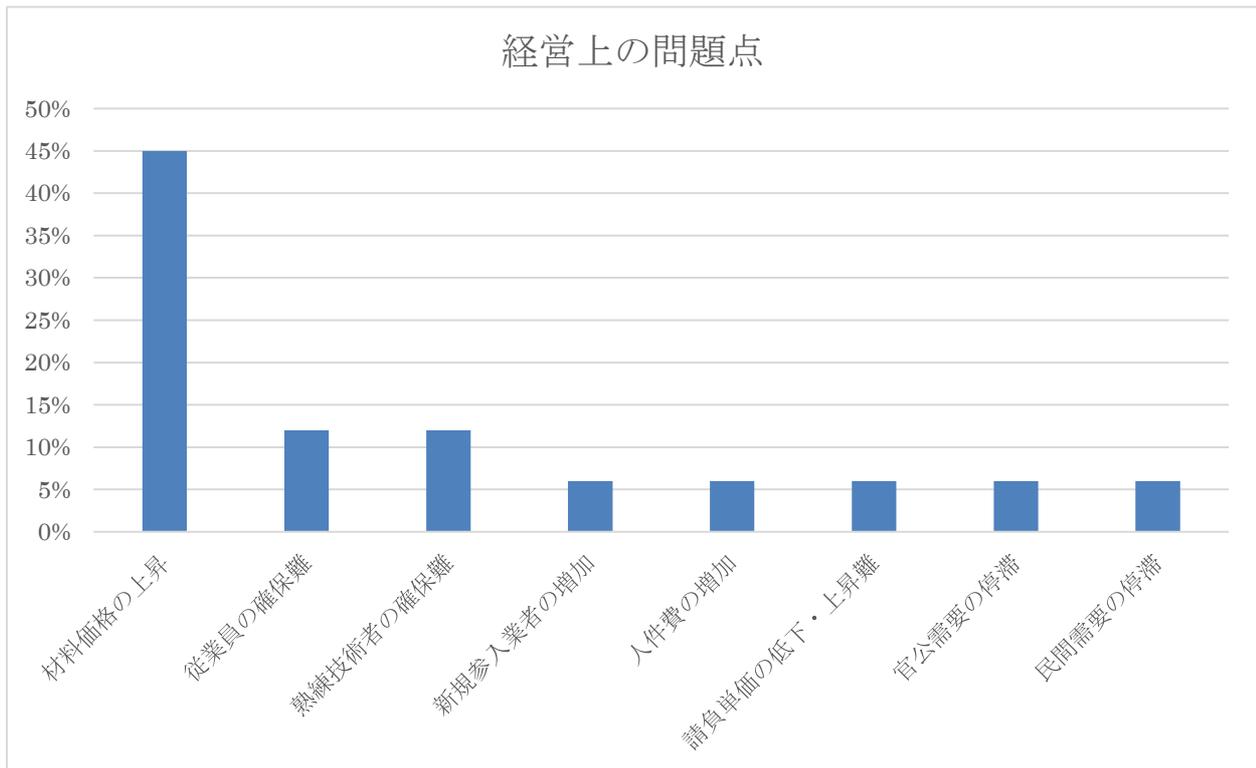


(1) 今期の売上額について、前年同期と比べた DI 値は▲ 3 となり、前回調査時の DI 値 ▲ 1 より悪化している。売上額について前期と比べた DI 値は▲ 4 となり、前回調査時の DI 値 0 より悪化している。売り上げ単価に関しては、前年同期に比べた DI 値は△ 2 であり、前回調査時の▲ 1 に比べ改善している。前期と比べると△ 4 であり、▲ 1 で 3 あった前回調査時より改善している。売上数量は、前年同期と比べた DI 値は▲ 5 であり、前回調査時の▲ 2 より悪化している。また、前期と比べると▲ 5 となり、前回調査時の 0 より悪化している。このように、売り上げに関しては、売り上げ単価以外は前年、前期と比べ悪化しているといえる。前年と比べ原材料仕入単価が上昇していると回答している企業がほとんどで、来期の見通しもほとんどの企業が上昇すると回答しており、原材料仕入単価の上昇は深刻といえる。

今期の資金繰りについて、前年同期と比べた DI 値は▲ 1 で、前回調査時の▲ 4 より改善している。前期と比べて▲ 2 であり、前回調査時の▲ 1 に比べやや悪化している。業況に関する DI 値は、前年同期と比べ▲ 2 であり、前期と比べると▲ 2 である。今期の業況について、今期の水準は▲ 8 であり、改善の傾向が見られた前回調査時と比べかなり悪化している。

(2) 今期の製造業の景況は、悪化がみられた前回の調査時と比べ、売り上げ単価を除いた数値が悪化している。その原因は、原材料仕入単価の上昇と思われる。企業からも、物価の上昇、原材料価格の上昇がある一方、加工単価が変わらないという悩みや、ロシアのウクライナ侵攻や上海のロックダウンなど、世界情勢に対する不安をあげる声が多い。

2-3 建設業



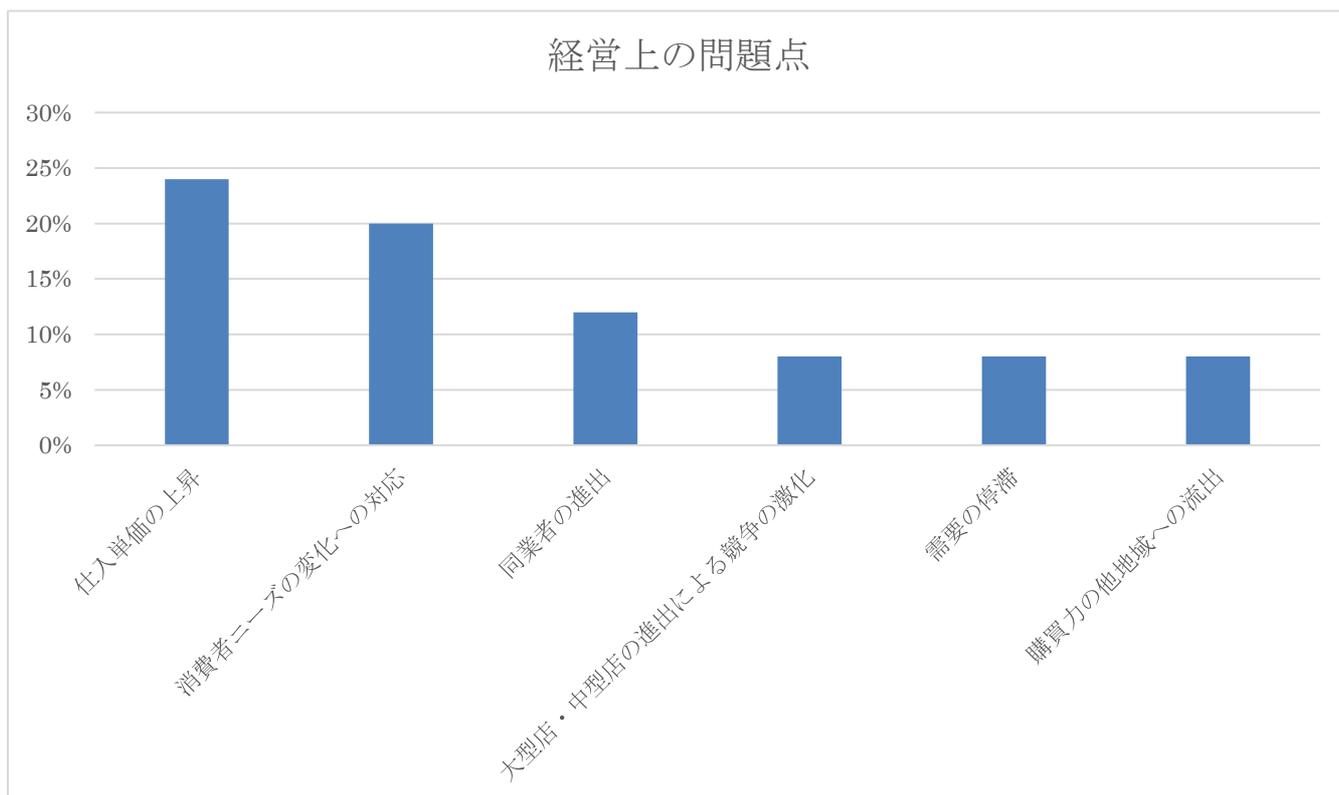
(1) 完成工事額について、前年同期と比べた DI 値は▲4 であり、前回調査時の DI 値▲3 よりやや悪化している。前期と比べた DI 値は▲4 であり、前回調査時の DI 値▲3 と比べてやや悪化している。資金繰りについて、前年同期と比べた DI 値は▲2 で、前回調査時の▲4 と比べやや改善している、前期と比べた DI 値は▲3 であるが、前年同期、前期とも、資金繰りについては、ほとんどの企業が前年同期、前期と比べて「不変」と回答していることは前回調査時と同じである。なお、受注額は、前年同期と比べた DI 値は▲3 であり、前回調査時の▲1 と比べ悪化している。一方、経常利益については、前年同期と比べ▲5 となり、前回調査時の▲7 よりやや改善している。

受注（新規契約工事）額は、前年同期と比べた DI 値は▲3 であり、前回の調査時の▲1 に比べやや悪化している。業況に関しては、前年同期と比べた DI 値は▲6 であり、前回調査時と変わらない。また、前期と比べた DI 値は▲5 であり、前回調査時の▲2 と比べ悪化している。完成工事額と受注額は前年同期と比べやや悪化してい

ることから、業況はやや悪化していると考えられる。

- (2) 材料価格の高騰と材料の不足が深刻である。企業によっては、材料価格が従来の2倍に上がっているという声もある。大企業と同様の環境基準や制度を、小規模事業者にも要求されていることが負担になっているとの声もある。コロナの影響が継続しているという企業もあり、今後の不安を声にする企業が多い。

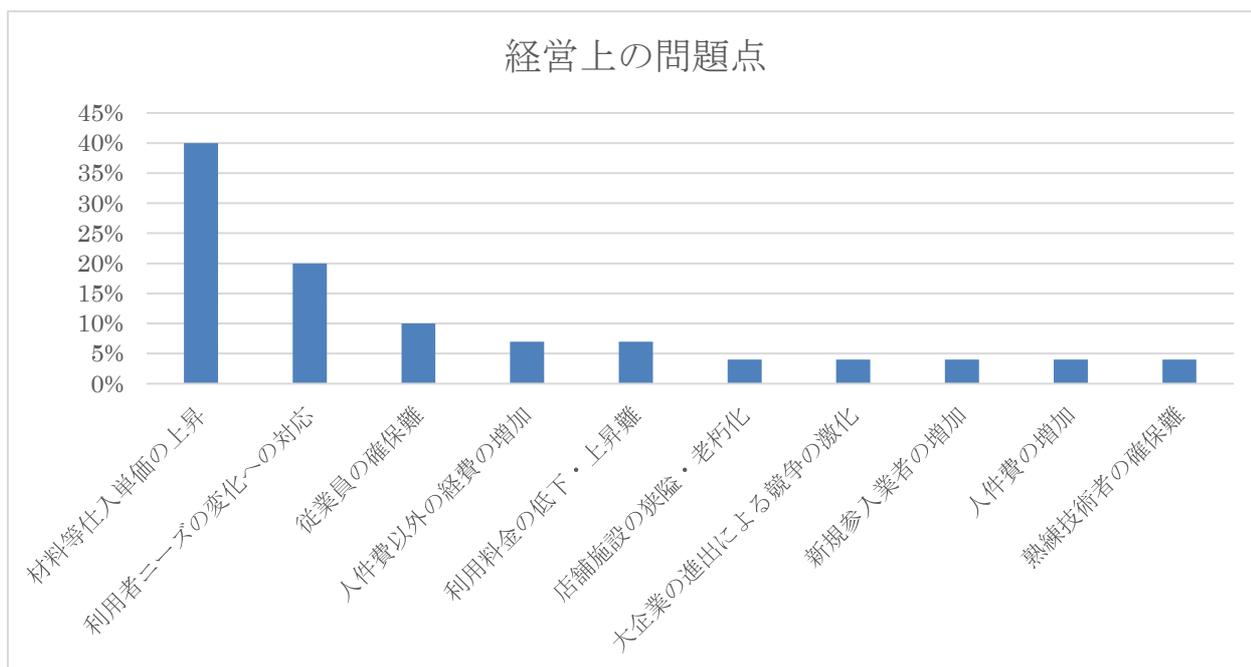
2-4 小売業



- (1) 売上額について、前年同期と比べたDI値は▲8であり、前記の▲9とほぼ変わらない。前期と比べると、▲11であり、前回調査時と同様である。客数に関しては、前年同期と比べたDI値は▲12であり、前回調査時の▲9より悪化している。なお、前期と比べると▲11であり、▲9であった前回調査時より悪化している。業況に関して、今期の水準は▲13であり、前回の▲9に比べ更に悪化している。ただ、今期の経常利益は▲4であり、前回調査時と変化がない。このような数値から、業況が悪化した前回調査時より、業況は悪化してきているといえる。

- (2) 前回調査時と同様、仕入れ価格の大幅な値上がりが企業を圧迫しているとの声が多い。商品の入荷が遅れていることは、他の業種と同様である。新型コロナウイルスの影響が落ち着いたとする声もあるが、新型コロナウイルス対策のための経費は従来と変わらず、経営を圧迫しているとの声がある。

2-5 サービス業



(1) 売上額について、前年同期と比べた DI 値は△1 であり、前回調査時の▲1.6 に比べ大幅に改善している。また、前期と比べても△1.0 となり、▲1.7 であった前回調査時と比べ大幅に悪化している。利用客数について、前年同期と比べた DI 値は▲3 であり、前回調査時の▲1.8 と比べて大幅に改善している。また、前期と比べ△7 であり、▲1.5 であった前回調査時と比べて大幅に改善している。

資金繰りについて、前年同期と比べた DI 値は▲2 であり、前回調査時の▲8 と比べ改善している。前期と比べて△3 であり、▲9 であった前回調査時と比べてかなり改善している。経常利益は前年同期と比べて▲9 であり、前回調査時の▲1.2 と比べやや改善している。業況については、前年同期と比べた DI 値は▲7 であり、前回調査時の▲1.1 と比べやや改善している。しかし、仕入単価についてはほとんどの企業が上昇していると回答し、来期の見通しもほとんどの企業が上昇すると回答している。このように、サービス業に関しては、大幅に悪化した前回調査時と比べ、改善傾向にあるが、仕入単価の上昇が今後の足かせとなる可能性があるといえる。

(2) 売り上げが改善したと回答する企業がある一方、全体的に消費が委縮していると感じる企業があるなど、業種によって景況感が異なっている。新型コロナウイルスの影響が継続しているとの声があり、また今後もコロナがまん延してしまうと酒類提供を制限されるかもしれないという漠然とした不安を持っている業者もいる。もちろん、原材料価格の高騰が深刻であるとする企業の声が多い。

3 まとめ

今回の景況調査では、他の業種に比べ、サービス業の景況改善が顕著であった。しかし、前回調査時と同様、原材料価格の高騰を経営上の問題点であげる企業がどの業種でもトップであったことを考えると、物価高が今後の景気に影響を与えることは確実であるといえる。半導体や他の部品調達の遅れも解消されておらず、景況が悪化する不安要素がぬぐえない。このような情勢を念頭に、引き続き警戒して経営指導を行っていくべきであろう。

以上